

高次脳機能障害学演習

[演習] 第3学年 前期 必修 1単位

《担当者名》○黒崎芳子 kuro-y@hoku-iryu-u.ac.jp 田村至

【概要】

失認、失行、記憶障害、遂行機能障害、注意障害、認知症に関する検査の選択、評価法についての必要な基本的知識を学び、適切に鑑別診断、評価報告書作成、リハビリテーションを行うための実践的能力を身につける。

【学修目標】

<一般目標>

高次脳機能障害に対する評価・診断およびリハビリテーションを実施できるよう、検査方法および目的、結果の解釈を理解する。

<行動目標>

1. 高次脳機能検査の目的・施行法・結果の解釈を理解し、適切な検査の選択を説明できる。
2. 失認、失行、記憶障害、遂行機能障害、注意障害、認知症などの高次脳機能障害の検査を適切に実施できる。
3. 評価報告書の書き方、リハビリテーションの方法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	知的機能検査	知的機能検査（解説と演習）	田村至
2	知的機能検査	知的機能検査（解説と演習）	田村至
3	失認検査	視知覚検査（解説と演習） 標準高次視知覚検査（VPTA）	黒崎芳子
4	失認検査	視知覚検査（解説と演習）BIT行動性無視検査 その他	黒崎芳子
5	失行検査	一般的な失行検査の方法とともに、標準高次動作性検査（SPTA）の解説と演習	黒崎芳子
6	記憶検査	記憶検査（解説と演習）三宅式記銘力検査、標準言語性対連合学習検査（S-PA）ほか	黒崎芳子
7	記憶検査	記憶検査（解説と演習） ウエクスラー記憶検査（WMS-R）	黒崎芳子
8	記憶検査	記憶検査（解説と演習） ウエクスラー記憶検査（WMS-R）	黒崎芳子
9	記憶検査	記憶検査（解説と演習） リバーミード行動記憶検査（RBMT）	黒崎芳子
10	遂行機能、注意機能検査	遂行機能、注意機能検査（解説と演習）	田村至
11	遂行機能、注意機能検査	遂行機能、注意機能検査（解説と演習） 標準注意検査法（CAT）	黒崎芳子
12	遂行機能、注意機能検査	遂行機能、注意機能検査（解説と演習） 標準注意検査法（CAT）	黒崎芳子
13	遂行機能、注意機能検査	遂行機能、注意機能検査（解説と演習） 遂行機能障害症候群の行動評価（BADs）	黒崎芳子
14	遂行機能、注意機能検査	遂行機能、注意機能検査（解説と演習） ウィスコンシンカード分類課題（WCST）その他	黒崎芳子
15	演習のまとめ	症例を基に検査結果の分析・解釈について学ぶ	黒崎芳子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート30%、定期試験70%

フィードバックとして、授業内で提示した演習課題のポイントを解説する。

【教科書】

【備考】

演習資料に関しては、その都度プリントを配付する。

高次脳機能検査に関して、マニュアルに従って適切に施行できるだけでなく、検査の目的、結果の解釈をよく理解してほしい。

【学修の準備】

予習では、検査の施行法、採点方法などの基準、その他注意点を把握する（20分）。

復習では、被験者にわかりやすい教示を実践できるよう実技練習を行う（20分）。

授業で配布された資料を整理し、検査の目的、結果の解釈をよく理解する（20分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

黒崎芳子（言語聴覚士）

田村至（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、高次脳機能検査の実技の習得を指導し、高次脳機能障害の診断・評価についての実践的講義・演習を行う。